

SNAPSHOT

Over the Moon

天にも昇る心地

Nature Vol. 446 (595) / 5 April 2007

ガリレオは美術の教育も受けていたが、その心は現代の科学者とまったく同じであった。彼は新しい技術にすぐに飛びつき、同業者に先を越されることを極端に恐れていた。

自分で試作した望遠鏡をパドヴァの空に向けたガリレオは、月の表面が滑らかではないことに気づき、この発見を報告しようと急いだ。これは、月が完全な球体であるとする教会の教えに反しているが、美術の素養があり、新しい遠近法にも精通していた彼は、月の

表面にある黒い斑が山々やクレーターを作る影であることに気づいたのである。

彼の著書『星界の報告』での最後の観察は、1610年3月2日という日付になっている。これは、宗教裁判所がこの本の出版を許可した翌日である。そして3月12日には550部の本が完成し、学者仲間に配布する準備がすでに整っていた。プラハのヨハネス・ケプラーは、この本を4月8日に受け取っている。

この550部のうち、ガリレオが描いた有名な月のスケッチが印刷されているものは500部しかない。今回、これまで知られていなかった絵が、南米の古物収集家の手に入った。疑いもなく、彼は幸せ者である。2007年3月28日に、美術史と科学史の専門家によって、5つの黄色い絵がガリレオ自身の手によるものであることが公式に確認されたのだから。

Alison Abbot



chuou-Logistics



www.chuou.co.jp
中央印刷事務器(株)
tel 03-3265-4858